

企画・執筆者紹介 (五十音順)

青山陽亮 あおやま・ようすけ

国家公務員共済組合連合会虎の門病院 臨床腫瘍科
1992年愛知県西尾市(旧幡豆郡一色町)生まれ。2010年愛知県立岡崎高校を卒業。2016年名古屋大学医学部を卒業。その後、聖路加国際病院で初期研修。2019年4月から現職。将来、専門予定の領域は乳腺腫瘍内科。
趣味はプロ野球観戦、海外サッカー観戦、ダイビング。応援しているプロ野球選手は巨人の菅野智之。好きなサッカー選手は本田圭佑。よく聴く曲はMr.Childrenの「終わりのなき旅」。仕事でのスローガンはheart-warming medicine、患者さんの心を温める医療を提供すること。夢は、世界中のがん患者さんをhappyにすること。

一家綱邦 いっか・つなぐに

国立がん研究センター社会と健康研究センター 生命倫理・医事法研究部 医事法研究室(室長)
2001年3月に名古屋大学法学部卒業。2001年4月に早稲田大学大学院法学研究科に進学、2010年3月まで法社会学研究室に所属(大学院修士課程、博士課程)。2007年4月に早稲田大学法学部法政学部に助手に就任。2010年4月から京都府立医科大学法医学教室に勤務(助教、学内講師)。2015年9月から国立精神・神経医療研究センター倫理相談・教育研修室室長に就任。2017年10月より、現職。日本医事法学会理事、日本生命倫理学会理事。専門は、医事法学、法社会学、生命倫理学。
これまでの著作に井上悠輔・一家綱邦編著『医学研究・臨床試験の倫理——わが国の事例に学ぶ』(日本評論社、2018年)、一家綱邦「再生医療安全性確保法に関する考察」甲斐克則編『再生医療と医事法』(信山社、2017年)、Ikka T, et al. Recent Court Ruling in Japan Exemplifies Another Layer of Regulation for Regenerative Therapy. Cell Stem Cell 2015;17:507-508.など

伊藤亮治 いとう・りょうじ

日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科
1983年3月生まれ。2011年杏林大学を卒業。同年より湘南鎌倉総合病院にて初期・後期研修医、内科チーフレジデント。2016年より同院総合内科所属。2018年よりオンコ・ジェネラリストを目指して現職に就く。
患者さんといつも同じ方向を見ながら、日々診療していきたいと思っています。

稲村直子 いなむら・なおこ

国立がん研究センター中央病院 看護部
1978年、岩手県生まれ。2001年群馬大学医学部保健学科看護専攻卒。同年、国立がん研究センター中央病院入職(婦人科・大腸外科・泌尿器科・内視鏡科混合病棟)。2011年、東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻修士課程修了。2013年、特別個室病棟配属 がん看護専門看護師取得。2016年、患者サポート研究開発センター配属 看護相談を担当。
現在は、看護相談を担当する傍ら、AYA支援チーム、臨床倫理コンサルテーションチームに所属し活動している。
これまでの著作に、『がん看護 臨床に活かすがん看護の基礎と実践 第2版』(ヌーヴェルヒロカワ、2018年)、『がん疼痛治療薬まるわかりBOOK』(照林社、2018年)、『国立がん研究センターに学ぶ がん薬物療法看護スキルアップ』(南江堂、2018年)など。

今井亮介 いまい・りょうすけ

聖路加国際病院 呼吸器内科 フェロー
1988年愛知県生まれ。2013年名古屋大学医学部卒。湘南鎌倉総合病院での研修を経て、2015年聖路加国際病院内科専攻医。その後同呼吸器内科専攻医を経て2019年より現職。専門は胸部悪性腫瘍、急性肺傷害、間質性肺炎。
これまでの著作に、『内科レジデントマニュアル』(執筆者一部、医学書院、2019年)など。

大場彬博 おおば・あきひろ

国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科 医員
1985年神奈川県生まれ。2010年浜松医科大学卒。秦野赤十字病院、けいゆう病院での研修を経て2014年、国立がん研究センター中央病院内科レジデント。その後、同院専門研修医、2019年より現職。専門は肝胆膵化学療法、胆膵内視鏡。

奥屋俊宏 おくや・としひろ

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科
1988年山口県生まれ。2013年山口大学卒。2013年徳山中央病院初期研修医、2015年都立駒込病院でのシニアレジデントを経て、2019年より国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科がん専門研修医。専門はがん支持療法、腫瘍内科学。

尾崎由記範 おざき・ゆきのり

国家公務員共済組合連合会虎の門病院 臨床腫瘍科 医員
1983年千葉県生まれ。2008年慶應義塾大学医学部卒。東京歯科大学市川総合病院での初期研修を経て、亀田総合病院腫瘍内科に2010年から後期研修医、2013年から医員として勤務。2014年より現職。専門は腫瘍内科学、乳がん薬物療法。

金政佑典 かねまさ・ゆうすけ

がん・感染症センター都立駒込病院 腫瘍内科
1984年岡山県生まれ。2009年京都大学卒。2009年より公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院にて初期研修。2011年よりがん・感染症センター都立駒込病院にて後期研修。2014年より同院腫瘍内科医員。専門は腫瘍内科、悪性リンパ腫・消化器がんの化学療法。

國頭英夫 くにとう・ひでお

日本赤十字社医療センター 化学療法科 部長
1961年鳥取県生まれ。1986年東京大学医学部卒。国立がんセンター中央病院内科などを経て現職。日本臨床腫瘍学会協議員・日本肺癌学会評議員。
これまでの著作に里見清一名義で『偽善の医療』(2009年)、『衆愚の病理』(2013年)、『医師の一分』(2014年、すべて新潮新書)、『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい解釈』(中外医学社、2011年)など多数。

公平 誠 こうだい・まこと

公平病院 腫瘍内科

1979年埼玉県生まれ。2004年に千葉大学を卒業し、千葉大学などでの研修を経て、2006年がん研有明病院化学療法科レジデント。2010年に国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科がん専門修練医、2011年～同医員、2014年～希少がんセンター兼任、2016年より医療法人慈会公平病院病院長。2017年千葉大学大学院卒業。専門は腫瘍内科であり、Community Oncologistとして活動している。これまでの著作に『新臨床内科学』（医学書院、2009年）、『What's New in Oncology』（南江堂、2015年）など。

小島勇貴 こじま・ゆうき

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科

名古屋医療センターで初期研修と腫瘍内科のトレーニングを行ない、名古屋大学大学院、愛知県がんセンターを経て、現在は国立がん研究センター中央病院に勤めています。がん診療に従事しながら、がん治療開発のための研究（トランスレーショナル・リサーチ）を行なっています。専門は腫瘍内科。

里見絵理子 さとみ・えりこ

国立がん研究センター中央病院 緩和医療科科長・地域医療連携部長

1970年山梨県生まれ。1994年山梨医大卒。山梨大学附属病院第一内科、河北総合病院での研修を経て、国立大阪病院消化器科レジデント。その後、2000年国立病院機構大阪医療センター消化器科医員。2002年、同外来化学療法室副室長、2003年、同緩和ケアチーム専任医師、2014年より国立がん研究センター中央病院緩和医療科科長。2017年より、同地域医療連携部部長。専門は、がん緩和医療。

佐藤恵子 さとう・けいこ

京都大学医学部附属病院 医療安全管理部

東京生まれ。東京薬科大学薬学部薬学科卒業、東京薬科大学大学院薬学専攻博士前期課程修了、三菱化成（現田辺三菱製薬）総合研究所勤務。ノースキャロライナ大学公衆衛生院で臨床研究の方法論を学んだ後、1999年東京大学大学院医学系研究科健康科学看護学専攻博士後期課程修了。国立がんセンター中央病院にて臨床研究コーディネーター、和歌山県立医科大学医学部教養・医学教育大講座講師。2005年京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻遺伝カウンセラー・コーディネーターユニット特定准教授、2010年同大医学研究科子どもの健康と環境に関する全国調査京都ユニットセンター、2014年同大医学部附属病院臨床研究総合センターEBM推進部、2018年より現職。専門は、医療倫理学、研究倫理学。

これまでの著作に、『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい作法』（園頭英夫、吉村健一と共著。中外医学社、2016年）

『幹細胞研究ってなんだ』（鈴木美香と共著。京都大学再生医学科学研究所、2014年。下記よりダウンロード可能）

<http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/project/project021>

『統計家の行動基準』（日本計量生物学会、2013年。下記よりダウンロード可能）

http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf

清水 研 しみず・けん

国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科 科長

1971年石川県生まれ。1998年金沢大学卒。東京都立荏原病院での初期研修後、国立精神・神経センター武蔵病院精神科、東京都立豊島病院精神科にて精神科一般の研修を積む。2003年より国立がんセンター東病院精神科レジデントとなり、以降は精神腫瘍学を専門とし、がん患者およびその家族の診療に専心している。2012年より現職。

『人生でほんとうに大切なこと』（稲垣麻由美著、KADOKAWA、2017年）に清水先生として登場。近刊に、『もしも1年後、この世にいないとしたら。』（文響社、2019年）。

清水千佳子 しみず・ちかこ

国立国際医療研究センター病院 がん総合診療センター 副センター長／乳腺・腫瘍内科 医長

1996年東京医科歯科大卒。初期研修を経て1998年、国立がんセンター中央病院レジデント。その後、同センターがん専門修練医、M.D. Anderson Cancer Center Medical Exchange Programを経て2003年、国立がんセンター中央病院第一領域外来部乳腺科医員、2010年、独立行政法人国立がん研究センター中央病院 乳腺科・腫瘍内科医員。2012年 同医長、2017年10月 国立国際医療研究センター病院 乳腺・腫瘍内科 医長/診療科長。2019年5月より現職。専門は乳がん薬物療法、サバイバーシップ。一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会 副理事長、一般社団法人JBCRG 理事、日本がん・生殖医療学会 理事、日本がんサポーターズクラブ学会 妊孕性部会会長、日本乳癌学会評議員、日本臨床腫瘍学会協議員などの役職も務める。

これまでの著作に、『乳がん患者の妊娠出産と生殖医療に関する診療の手引き2014年版』（金原書店、2014年）、『乳がん患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療の手引き2017年版』（金原書店、2017年）、『AYA世代がんサポート』（金原書店、2018年）など。

下井辰徳 しもい・たつり

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科医員

1982年長野県生まれ。2007年岐阜大学卒。2018年順天堂大学大学院卒。卒業後はがん・感染症センター都立駒込病院で初期研修・後期研修を行ない、内科一般、がん診療の基礎を学ぶ。2013年より国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科チーフレジデント。2015年4月より同医員。2017年4月～2019年3月まで、厚生労働省保険局医療課へ出向し、平成30年度診療報酬改定等の医療保険行政や先進医療や患者申出療養などの保険外併用療養費制度、がんのゲノム医療の国内整備を担当した。2019年4月より現職復帰。資格：日本内科学会 総合内科専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医、日本乳癌学会 乳腺認定医。

専門は乳がん、肉腫、その他希少がんをはじめとする腫瘍内科一般、がん患者の緩和ケア、がん支持療法。

白波瀬丈一郎 しらはせ・じょういちろう

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 特任准教授

1960年京都府生まれ。1986年慶應義塾大学卒。卒後、慶應義塾大学病院にて研修を経て、東京武蔵野病院、丘の上病院、慈雲堂内科病院に勤務。1996年慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室助手。2003年同医学部専任講師。2014年より現職。

専門は力動精神医学、精神分析学。

田代志門 たしろ・しもん

東北大学大学院文学研究科 社会学専攻分野准教授
1976年山形県生まれ。2000年、東北大学文学部卒。2007年、東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。東京大学大学院医学系研究科特任助教、昭和大学研究推進室講師、国立がん研究センター生命倫理部長などを経て、2019年より現職。専門は社会学、生命倫理学。
これまでの著作に『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』(世界思想社、2016年)、『研究倫理とは何か——臨床医学研究と生命倫理』(勁草書房、2011年)など。

長沖優子 ながおき・ゆうこ

聖路加国際病院 小児科
1978年石川県金沢市生まれ。2003年金沢大学医学部医学科卒。その後金沢大学付属病院、石川県立中央病院、富山県立中央病院、公立能登総合病院、福井県済生会病院、福井県立中央病院などを経て2011年から聖路加国際病院小児科で勤務。専門は新生児ですが金沢大学時代のわずかな知識を頼りに内分泌外来も担当するうち、内分泌障害をもつがんサバイバー患者を受け持つようになり現在英国の病院でlate effects 診療の実際を勉強中。

服部健司 はっとり・けんじ

群馬大学大学院医学系研究科 医学哲学・倫理学講座 教授
1959年東京都生まれ。1984年旭川医大卒。国立武蔵療養所(現 国立精神・神経医療研究センター病院)精神科で研修。1987年に早稲田大第一文学部哲学科に編入学し、1993年同大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了、1999年同博士後期課程単位取得満期退学。同年、群馬大医学部医学基礎講座助教授、2002年に教授。2003年より現職。専門は臨床倫理学、臨床倫理学・医療倫理学教育、医学哲学、文学の哲学。
これまでの著作に『医療倫理学のABC 第4版』(メヂカルフレンド社、2018)、『ドラマで考える医療倫理I・II(DVD2枚組)』(art médical、2009)、など。

宮田佳代子 みやた・かよこ

国立がん研究センター中央病院 地域医療連携部 相談支援センター がん相談専門職
1975年神奈川県生まれ。2010年日本福祉大卒。社会福祉士。2011年より国立がん研究センター中央病院 相談支援センター専従 がん相談専門職。
中央病院の相談支援センターでは、個別相談のほかには患者教室の運営や就労支援も行なっています。2017年からは地域医療連携部として地域の医療機関との連携を強化し、安心して療養できるような環境調整支援にも力を入れています。

元雄良治 もとお・よしはる

金沢医科大学 腫瘍内科学 主任教授
1955年石川県小松市生まれ。1980年東京医科歯科大卒。同年金沢大学第1内科入局、1984年米国テキサス州ダラス・ワドレー分子医学研究所研究員、1988年金沢大学がん研究所腫瘍内科助手、1992年同講師、2002年フランス・マルセイユINSERM U1068(文科省短期在外研究員)、2003年同助教授、2005年より現職。専門は、腫瘍内科学、消化器内科学、腫瘍細胞生物学、漢方医学。
これまでの著作に、『全人的がん医療:がんプロフェッショナルを目指して』(じほう、2007年)、『はじめの一步は絵で学ぶ:腫瘍学:知っておきたいがんの知識とケア』(じほう、2015年)、『まるごとわかる!がん』(南山堂、2017年)などがある。

守田 亮 もりた・りょう

秋田厚生医療センター 呼吸器内科
1976年千葉県生まれ。2006年秋田大学卒。秋田厚生医療センターで初期研修を経て、2012年に博士課程を修了。同年10月より秋田赤十字病院呼吸器内科副部長として勤務。2017年4月より国立がん研究センター中央病院呼吸器内科に勤務となった。2018年10月より秋田厚生医療センター呼吸器内科科長として勤務。専門は胸部悪性腫瘍の診断と治療。またJapan Team Oncology ProgramのMentorとしてチーム医療の普及および、患者サバイバーシップを専門としている。
これまでの著作に『呼吸器疾患最新の治療 2019-2020』(部分執筆、南江堂、2019年)、『医学の歩み がん免疫療法の躍進』(部分執筆、医歯薬出版、2017年)など。

矢崎 秀 やざき・しゅう

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科
1987年東京都生まれ。2012年日本大学医学部卒。聖路加国際病院で初期臨床研修、内科後期研修、内科チーフレジデント。その後、腫瘍内科専門研修医。2019年より国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 専門修練医。専門は腫瘍内科学、乳がん薬物療法。乳がんを中心に臓器横断的な薬物治療開発に従事したいと考えている。
執筆歴として、『内科レジデントマニュアル 第9版』32章 悪性腫瘍総論・Oncologic Emergency(医学書院、2019年)、『総合内科病棟マニュアル』Part 11 腫瘍(メディカル・サイエンス・インターナショナル、2017年)。

横山雄章 よこやま・たかあき

日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科
2009年獨協医科大学卒業。2016年より現職。専門は乳がん、卵巣がんの化学療法。